

「こんな暑い日に外なんか出たくない」  
 クーラー部屋から抜け出して夏の午後ティータイムを優雅に過ごせるように・・・

# 気持ちのいい午後には 川辺で紅茶を



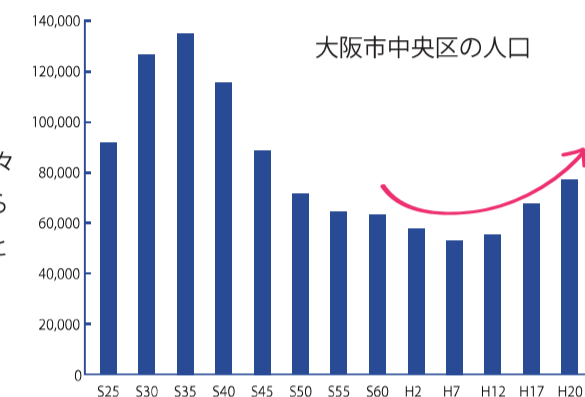
## 敷地概要

### ◆背割り

1583年から始まった豊臣秀吉の大坂城築城に伴う町づくりで、道路整備と同時に町屋から排出される下水を排除するために建設された日本最古の下水溝である。現在もその遺恨が船場のビルの裏に残っているが、現在はコンクリートで埋められている。

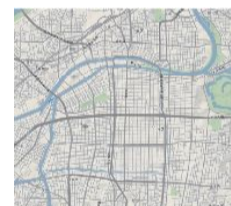
### ◆中心市街地の居住者人口の増加

日本の都市全体がドーナツ化現象の中、大阪では約3年前から中央区に人口が増え始めている。オフィス街の中に、徐々に高層マンションが建ちはじめ、これらもまたヒートアイランドの原因の一つとなっている。



### ◆軸線の変化

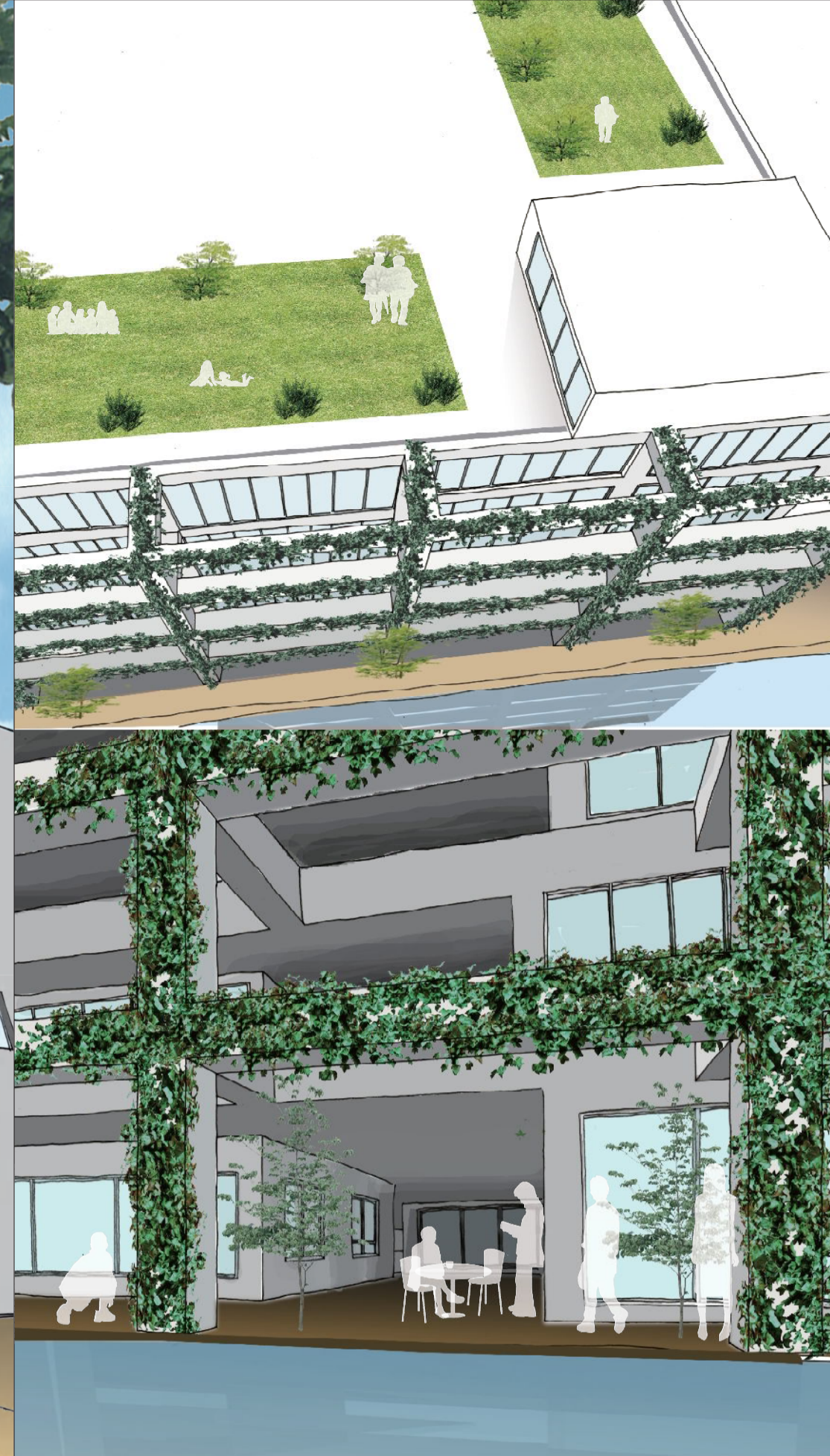
昔は河川が東西に走っており、河川が流通の中心だったため、人々は今よりも河川に依存していた。よって、昔の大阪は東西軸を中心とした都市構造だったと言える。しかし今日では、車中心の社会となり、河川も埋め立てられ、東西軸は消えていき、南北軸を中心とした都市構造である。



©2009 Google より

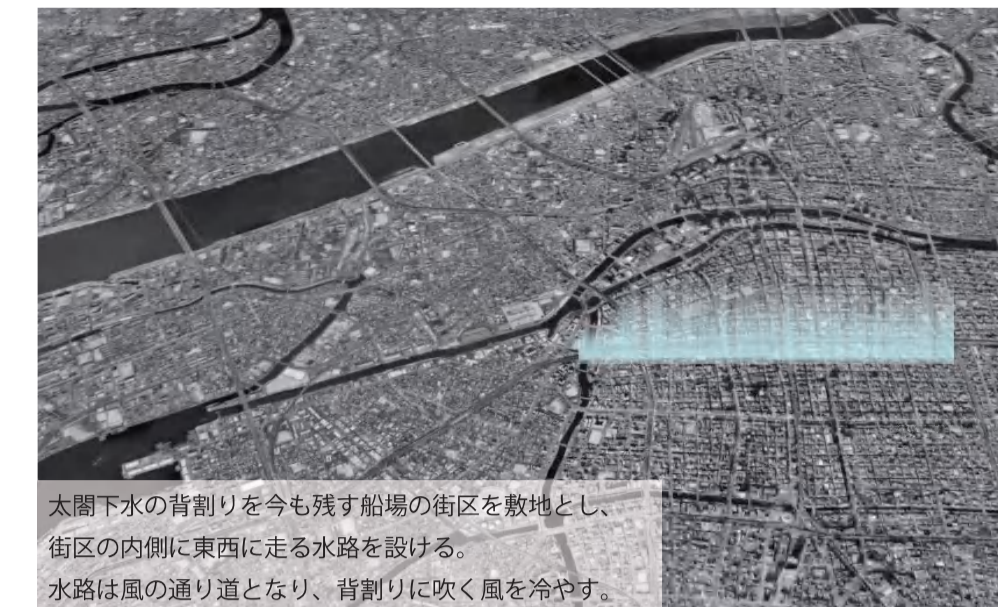


『浪華大阪 日本の古地図』より



## 提案

### ◆水路復活



太閤下水の背割りを今も残す船場の街区を敷地とし、街区の内側に東西に走る水路を設ける。水路は風の通り道となり、背割りに吹く風を冷やす。

### ◆エコシティとしてのリファインによる躯体の利用

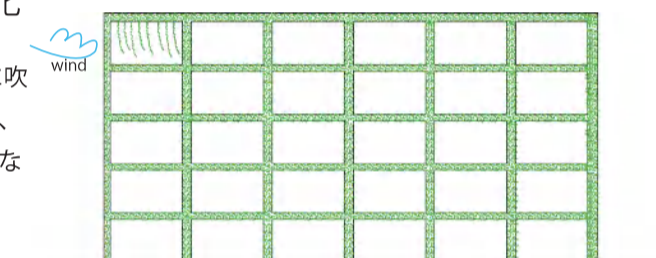
建替えによってCO<sub>2</sub>を発生させるのは本末転倒である。船場の背割りにより水路を通しやすいが、風の道としては狭すぎるため、躯体を残しつつ住居部分をセットバックさせ、水路幅14m以上を確保した。

### ◆空きオフィスへの住宅の挿入

商業の街である大阪の表向きを残しつつ、きたるべきオフィスの縮小、住民増加に備えたストック活用を提案する。これは職住近接を可能とし、大阪をコンパクトシティとすることで、通勤により発生するCO<sub>2</sub>の削減や通勤ラッシュの改善が見込める

### ◆躯体の緑化と風の可視化

躯体を緑化する事でより水路に吹く風が肌にも目にも涼しくなり、ここで紅茶を飲みたくなるような空間となる。

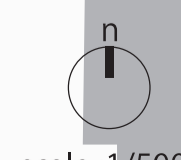
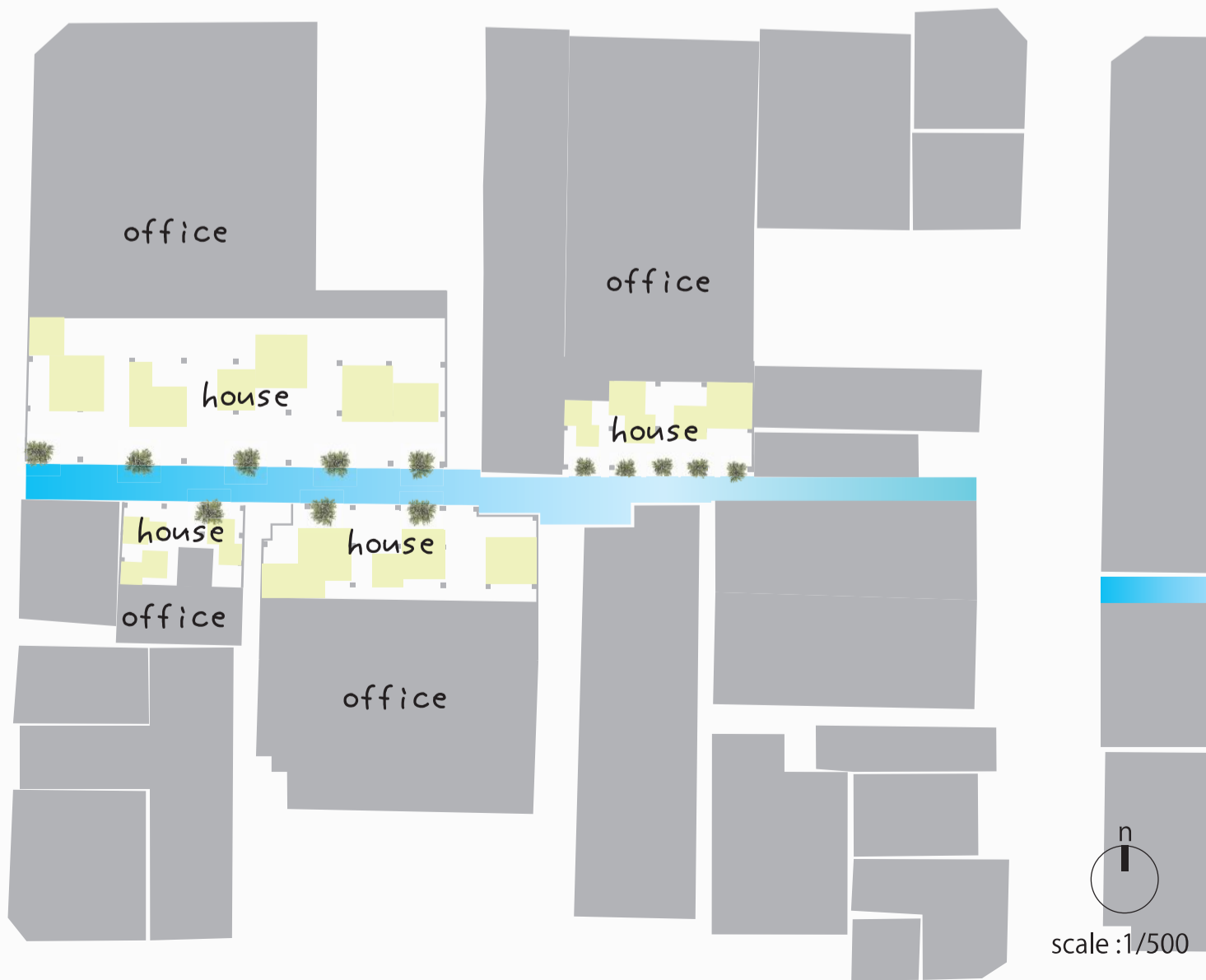
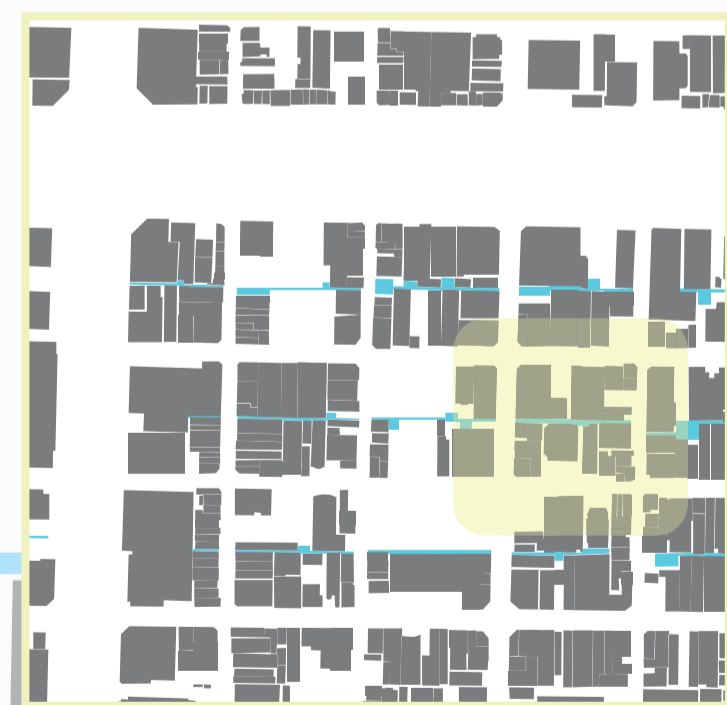


### ◆波及と効果

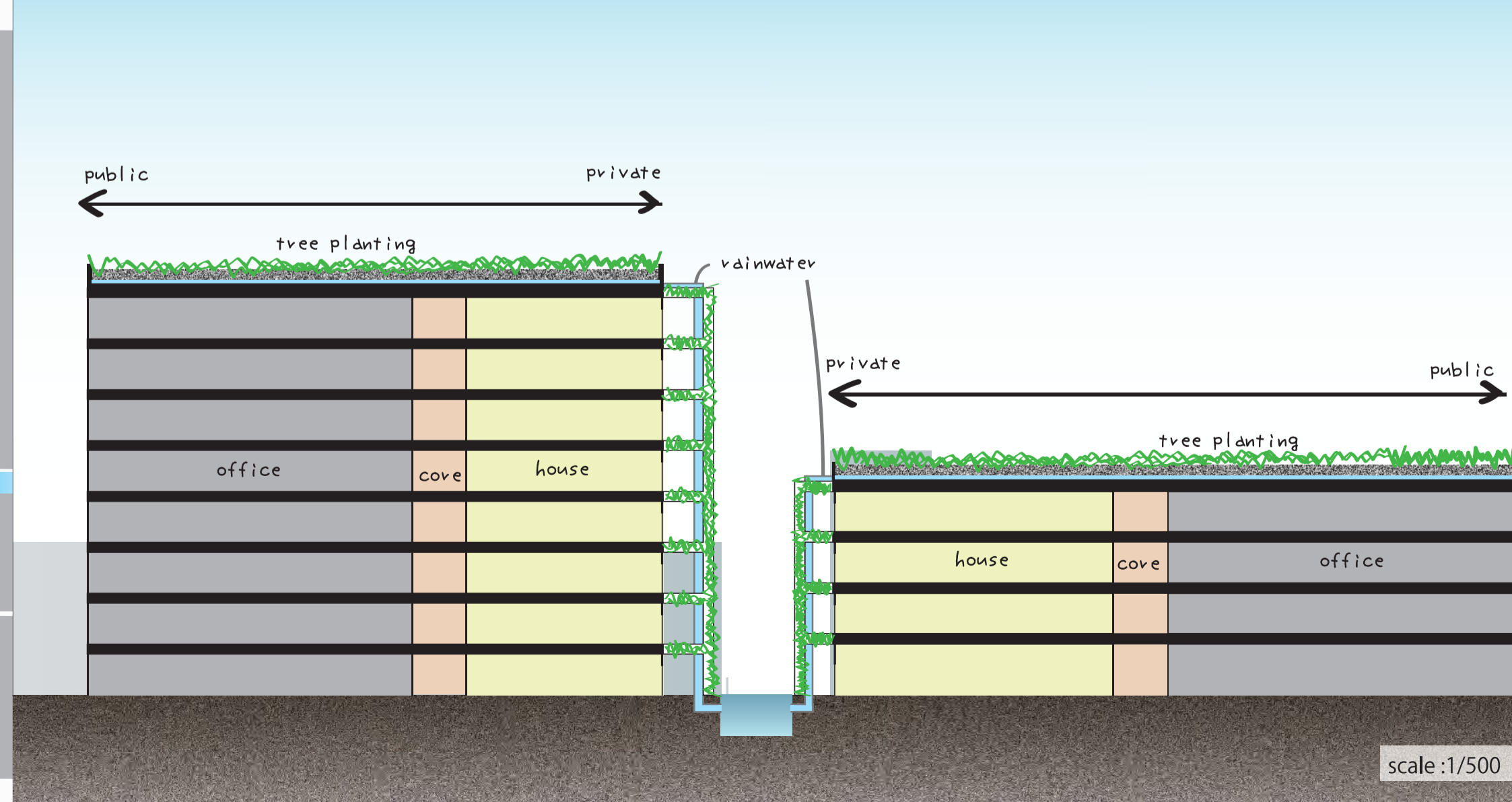
都市にこれらの計画が波及することで効果はどんどん大きくなる



1つだとクールスポットと海風の通り道である → 線状に広がることでより涼しい道ができあがる → さらに面状に広がることで街全体が涼しくなる



scale:1/500



scale:1/500